
家庭、技術・家庭分科会

I 研究のあゆみ

4月17日(月)	2023年度名教組教研オリエンテーション (2023年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(火)	発表テーマ報告・集約	
5月25日(木)	研究計画の検討 (第1・2次実践の検討と研究のまとめ方)	【汐路中】
5月下旬～7月下旬	全体での会は開かなかったものの、個別に指導	
夏季休業中	全体での会は開かなかったものの、個別にレポートの検討	
9月初旬まで	全体での会は開かなかったものの、市集会発表内容の検討・リハーサル	
9月16日(土)	第73回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

○ 小学校家庭科(3本)

- ・ 衣生活に関する内容(1本)
- ・ 食生活に関する内容(1本)
- ・ 住生活に関する内容(1本)

小学校での実践では、生活をよりよくするために、生活の中から問題を見付け、そこから課題を見出し解決する学習についての報告がされた。話し合い活動の円滑な進め方、学習プリントやカードの工夫、タブレットの効果的な活用について報告された。

○ 中学校技術・家庭科(5本)

- ・ 材料と加工に関する内容(1本)
- ・ 衣食住に関する内容(4本)

中学校での実践では、技術分野では技能を主体的に身に付ける実践、家庭分野では生活をよりよくするために工夫する実践や、特別支援学級での作品づくりの実践が報告された。協働的な学びの中から自分の良さや他者の良さを認め合い、学びを深めていく例が報告されるとともに、ICTの効果的な活用方法が報告された。

III 今後に残された課題

- 技術の進歩により生活の在り方がめざましく変化している今日において、様々な問題が生じている。将来を生きる児童生徒自身が、その中から課題を見出し、身に付けた知識・技能や多様な情報等を活用しながら解決していくための資質・能力を育成することが課題である。
- タブレットを活用した学習の在り方が浸透してきている一方、タブレットを用いない学習の在り方の良さもある。それぞれの長所・短所を見直し、児童生徒にとって最良となる授業方法を検討することが課題である。